

看護師養成課程の新設



那覇市医師会看護学校担当理事 山城 千秋

那覇市医師会は、沖縄県の慢性的な看護師不足に対応するために、昭和47年、那覇市東町に那覇市医師会立那覇准看護学院を設立しました。昭和53年4月には専修学校制度発足に伴い、那覇高等看護専修学校と改称し准看護師養成に努めてまいりました。

平成5年4月には、老朽化し手狭になったため学校を豊見城市へ新築移転し、同時に看護師の養成を希望する時代のニーズに応え看護師2年課程（以下「進学コース」とします）（1学年50名）を新設し、さらに准看護師課程（以下「准看コース」とします）の定員増（1学年150名）を行い、学校名を「那覇市医師会那覇看護専門学校」と改めました。

本会が准看護師養成を始めて35年間、今日までに卒業した生徒は4,202人、進学コースは581人の卒業生を県内外へ送り出しております。

ここ数年は、両学科ともに応募者も増え学校運営も安定してきておりましたが、急激に進む高齢化や、医療の高度化・専門分化、入院期間の短縮や在宅医療へのシフト等、医療を取り巻く環境の変化から、医療現場は、より質の高い看護師教育を希求するようになってまいりました。それは、全国的な傾向で、看護系大学の増加、既存の短大は4年制大学へ、准看コース及び進学コースは看護師3年課程（以下「レギュラーコース」とします）へと教育課程の移行が急速に進んでおります。本県においても

- ①愛楽園・那覇高校衛生看護学科における准看コースの廃止、
- ②北部地区医師会北部看護学校における進学コース閉鎖とレギュラーコースのクラス増（50名→80名）、

- ③中部地区医師会立看護学校開校（平成20年予定）レギュラーコース2クラス準備（80名）、
- ④浦添看護学校における進学コース（定時制2クラス）閉科とレギュラーコース新設（80名）、
- ⑤名桜大学の看護学科（80名）新設（平成19年4月開科）、

と、全国と同様の状況があります。そのような中で沖縄県は、平成18年以降の看護職員需給見通し（表1）を発表しました。それによると今後5年間、700から800名の看護師不足が見込まれております。沖縄県の保健・医療に責任を持つ医師会として本会の看護師養成はこれまで以上に責任が重くなってきます。

表1（2006年1月発表 県福祉保健部資料）

年度	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年
需要数	16,544	16,738	16,930	17,126	17,210
供給数 (新卒)	15,750 (532)	15,968 (534)	16,170 (536)	16,356 (538)	16,516 (531)
差引計	-794	-770	-760	-770	-694

※ 全国 平成22年の需給見通し：需要数140万6,400人 供給139万500人 1万5,900人の不足が見込まれる。

教育課程の変更

本校の准看コースは、毎年150名の卒業生を出しています。しかし、ここ数年、卒業生の8～9割は看護師資格を得る為に進学コースを受験しており、新卒者の6～7割が進学している状況です。また、卒業時、就職を選択した者も数年後には進学していることから准看コース卒業生の就業率は低く、卒業後に即戦力としての

数には数えられない状況が続いております。

そこで本会は、緊迫した県内の看護師需給に貢献する方策として表2に示した通り、平成20年4月に准看コースを縮小（1学年3クラスから2クラス：総定数160名）し、進学コースを廃止するとともに、レギュラーコース（1学年2クラス総定数240名）を新設することを決定しました。

表2（那覇看護専門学校の今後の募集定員）

課程名 (就業年限)	准看護師養成課程 (2年)	進学コース (3年)	レギュラーコース (3年)
平成19年度	150	50	
平成20年度	80	50	
平成21年度	80	募集停止予定	80
平成22年度	80		80
平成23年度	80		80
平成24年度 以降同	80		80

この結論に至るまでの経過については、平成14年頃、県内の看護師養成校において浦添看護学校の進学コースの縮小、あるいは養成中止、中部地区医師会によるレギュラーコースの新設の話が持ち上がりました。私どもは「看護学校の将来像を考える会」を設置し、今後の看護師養成のあり方について検討を始めました。浦添看護学校が平成19年度に進学コースを縮小、平成21年にレギュラーコースの新設を決め、あわせて平成19年の名桜大学における看護学科の新設、平成20年の中部地区医師会レギュラーコースの募集開始が決定されました。

本校として「将来にわたって安定した運営と、優秀な人材を育成するには、どうすれば良いのか」、また、「経済的負担も少なく、より現実的で、実現可能な方法はあるのか」を模索し、検討を重ねた結果、導き出した結論は表2

で示した内容でした。

この間、多く議論されたのは准看コースの存続のことでした。ご存知のように、准看護師の養成校は全国的に年々減少しておりますが、しかしその需要は未だ高いものがあります。また日本医師会の基本方針である看護体制の三層構造（看護助手、准看護師、看護師）をしっかりと堅持出来るように、准看護師の養成は継続していくこととしました。

県内の各看護師養成校においては優秀な看護師を育て社会へ送り出し、沖縄県の保健・医療に貢献する目標を持っていることでしょうか。本校も社会的ニーズである在宅医療推進、高度医療等、多様化する医療制度への対応、さらに医療事故の防止に対処し得る高い資質を備えた看護師を育成し、沖縄県の看護師需給へ積極的に寄与したいと考えております。その為にも、今回の課程変更を契機に「人を大切にし、その権利を守る態度」「相手を受け入れる力」「自分の行為について、説明する知力」「探究心を持ち続ける」「困難から逃げず、向き合う精神」を教育の目標とし、生徒・学生とともに那覇市医師会那覇看護専門学校のブランドを高める所存です。そして、沖縄県医師会の会員の皆様にもフィードバックをしていきたいというふうに考えております。

最後になりますが、看護学校の運営につきましては県医師会始め一部の地区医師会から、これまで看護学校運営補助金のご支援を頂戴したことに対しまして深く感謝申し上げたいと存じます。また、今回、進めております課程変更のための費用は銀行等から借入をする予定にしております。この状況をお汲み取りいただきまして、今後も一方ならぬご支援をお願い申し上げます。

原稿募集！	随筆のコーナー（2,500字以内）
	随時、募集いたします。日常診療のエピソード、青春の思い出、一枚の写真、趣味などのほか、紀行文、特技、書評など、お気軽に御寄稿下さい。